

飛鳥・橿原ユネスコ協会スタート

次世代に文化遺産を

橿原で 県内で5番目の発足

飛鳥・橿原ユネスコ協会(米田正国会長)レセプションホールで正式に同協会が発足、29日、橿原市小房町 設立総会を開き、約1ユネスコ精神に基づくと



飛鳥・橿原ユネスコ協会の設立総会で日本ユネスコ協会連盟から米田会長(左から2人目)に渡されたユネスコ旗=29日、橿原市小房町のかしはら万葉ホールで

世界平和への活動に取り組むとともに地域の文化遺産を守り伝えていくと宣言した。同協会は、約1年にわたる設立準備会を経て県内で奈良、天理、斑鳩、吉野に続き、5番目に設立され、橿原市、桜井市、高取町、明日香村と周辺の地域を中心に、会員約220人でスタート。これからの主な活動は、書き損じたはがきの収集活動などによる識字・世界寺子屋運動や平和コンサート、飛鳥川クリーンキャンペーンをはじめ、日本ユネスコ協会連盟企画事業への参加や世界遺産

保全支援活動などで、夏ごろに両寺で「平和の鐘(かね)」を鳴らす「こ」のイベントも行われる。

米田会長はあいさつの中で「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とするユネスコ憲章の前文には戦争と平和という大きなキーワードが含まれている」と述べ、さらに「現代は物質的な豊かさを手にしたが、幸せな生活を送れているとは言いがたい。教育や科学、文化の部分から戦争や地球環境破壊を許さず、文化遺産や自然などを次世代に伝えていくためにもユネスコを通じた活動をしていきたい」と同協会の抱負を語った。

2009年3月30日 奈良日日新聞

遺産守る活動を

飛鳥・橿原ユネスコ協会が設立総会



飛鳥・橿原ユネスコ協会の設立総会が二十九日、橿原市小房町のかしはら万葉ホールで開かれた。県内のユネスコ協会としては奈良、天理などに続いて五番目の設立となる。総会で、米田正国会長が「日本人の心のふるさとでもある飛鳥・橿原の地に飛鳥・橿原ユネスコ協会の設立趣旨を説明する米田設立準備会会長」29日、橿原市小房町のかしはら万葉ホール

は、美しい自然遺産や文化遺産があり、ユネスコ精神にのっとり完全な保存に努めたい。世界平和と地球を守るために活動を」と設立趣旨を説明した。発起人代表として関義清明日香村長があいさつ。議事に移り、設立決議、米田会長以下役員を選出、事業計画などを決めた。引き続き、ユネスコ旗受領式や柿本善也前知事の記念講演などがあつた。同協会の会員は現在のところ二百八団体・個人。

2009年3月30日 奈良新聞